



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サイエンス・カフェ札幌がグッドデザイン賞を受賞
Author(s)	村井, 貴
Citation	北海道大学 高等教育推進機構 ニュースレター, 104, 21-24
Issue Date	2016-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/60821
Type	article
File Information	Newsletter_No104_CoSTEP_GOOD-DESIGN.pdf



科学技術コミュニケーション オープンエデュケーションセンター CoSTEP部門

サイエンス・カフェ札幌がグッドデザイン賞を受賞

2015年9月29日、公益財団法人日本デザイン振興会が主催するグッドデザイン賞の「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」の部門において、CoSTEPの応募作品「触媒としてのサイエンス・カフェ札幌 ～北海道大学 高等教育推進機構 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) の10年間の取り組み～」が受賞する運びとなりました。

グッドデザイン賞は1957年に通商産業省（現在の経済産業省）によって「グッドデザイン商品選定制度」として創設され、およそ60年近く継続されてきた賞で、作品は有形無形を問わず、プロダクトデザインから社会貢献活動といった取り組みまで幅広く対象としています。

日本でサイエンスカフェという文化が徐々に広がり始めた2005年から現在にいたるまで、CoSTEPは紀伊國屋書店札幌本店1階のインナーガーデンにて「サイエンス・カフェ札幌」を、86回に渡り開催してきました。CoSTEPではサイエンスカフェをはじめとする科学技術コミュニケーション活動を広く周知し、認知度をさらに高める目的で、昨年4月に2015年度グッドデザイン賞に応募することになりました。

本稿ではサイエンス・カフェ札幌が無形のデザインである社会貢献活動としてグッドデザイン賞を受賞した意義及び受賞後に開催された展示会などについて報告します。

【サイエンス・カフェ札幌の特色】

応募作品名に「触媒としての～」と添えてあるのはサイエンス・カフェ札幌が研究者と市民をつなぐハブとなった結果、単なるサイエンスカフェに留まらず、周囲に好影響をもたらし、新たなプロジェクトや出会いを生み出していったためです。具体的にはサイエンス・カフェ札幌を通じて知り合った仲間が集って、新たなコンセプトのサイエンスカフェを企画したケースや参加者として来場した学生がゲストの研究者の話を聞いて、その後その研究室に入っ

て活躍したケースなどが挙げられます。また、教育的な側面では受講生が主体となって運営されている点がとても重要です。北海道大学の大学院生を中心に構成されている受講生が研究者と市民をつなぐ役割を経験することで、将来その受講生が研究者になった時、自分の研究テーマを基に熱心なアウトリーチ活動に取り組んでもらいたいと私たちは考えています。10年以上の実績のあるCoSTEPにいて、「継続は力なり」という言葉を痛感する瞬間があります。サイエンス・カフェ札幌を経験した修了生が各地でサイエンスカフェなどのアウトリーチ活動を活発に行い、その成果を実際に耳にする時です。これは“持続可能な実践的教育”が成立している状態といっても過言ではありません。

ひとつの事柄がそれだけで完結せず、有機的な結



写真1 交流しながら議論する市民



写真2 研究者と市民の対話

びつきから連鎖的に新たなシーンを生み出していくサイエンス・カフェ札幌の特色とはまさにこの触媒の機能であると考えます。

【受賞の意義】

サイエンス・カフェ札幌がこれまで積み上げてきた成果に対し、有形無形に関係なく総合的なデザインを評価・推奨する日本で唯一の制度であるグッドデザイン賞から外部評価を得られたということが最も重要であると考えています。今後もこの路線を継続しながら、その時々によって創意工夫を加え、CoSTEPのサイエンス・カフェ札幌は進化していくことになります。

北海道大学の組織として初の受賞であるという点も重要です。CoSTEPは科学技術コミュニケーションの教育研究活動を進めていますが、同時に教育を通じたアウトリーチ活動を担っている組織でもあります。グッドデザイン賞の受賞によって、北海道大学の社会貢献活動に対する姿勢を全国に示すことができたのは意義があったと考えます。

目に見える効果として、今後のサイエンス・カフェ札幌にて、Gマークの自由な使用が可能になった点が挙げられます。公益財団法人日本デザイン振興会によれば、Gマークの認知度は87%を超えてい

ます。サイエンス・カフェ札幌のチラシ、ポスター、WebページでGマークを活用することで、これまで以上に強く訴求できることでしょう。

【審査委員の評価】

グッドデザイン賞の審査は部門ごとの審査委員が行うことになっています。CoSTEPが応募した「地域・コミュニティづくり／社会貢献活動」の選考は以下の5名が担当してくださいました。

- ・山崎 亮氏／東北芸術工科大学デザイン工学部
コミュニティデザイン学科
学科長
- ・南雲 勝志氏／ナグモデザイン事務所 代表
- ・上田 壮一氏／多摩美術大学 客員教授
- ・横川 正紀氏／株式会社ディーアンドデルーカ
ジャパン 代表取締役
- ・色部 義昭氏／日本デザインセンター
色部デザイン研究室 主宰

以下は審査委員による評価コメントの引用です。特に教育面での成果を評価されている点が印象的でした。また、CoSTEPの特色のひとつであるデザイン性の高さにも言及されており、細かく審査の目が行き届いていたのだということを強く感じました。

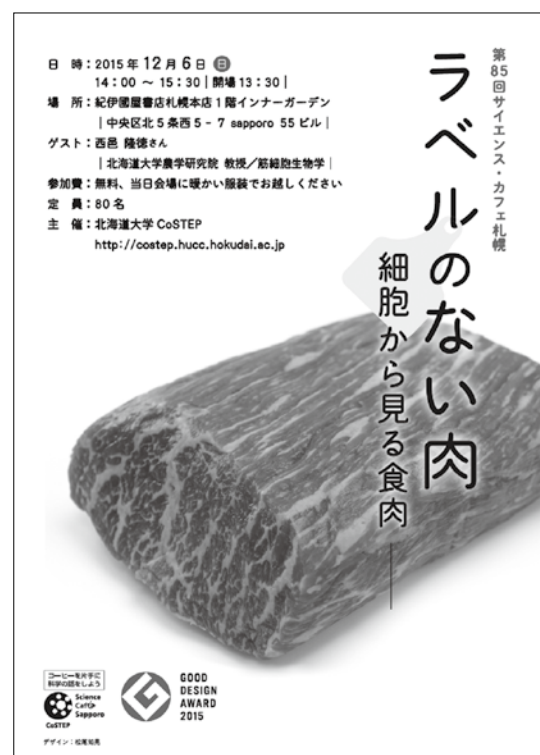


写真3, 4 グッドデザイン賞のGマークを掲載したチラシ。CoSTEPデザイン実習の受講生が制作

“各地でサイエンスカフェは行われているが、学生が主体となることで実践的な学びの場となっていること、地域に根ざしたテーマを積極的に取りあげることで、大学と地域を結ぶ試みになっていること、さらにはウェブサイトを通じた情報コミュニケーション、受講生による自発的なサイエンスカフェの実施など、質を向上させながら10年以上継続している点が高評価となった。各回のフライヤーやポスターのデザインにも、タイトル付けからグラフィックに至るまで参加者目線の工夫が随所に見られ、ありきたりなサイエンスカフェから一線を越えていこうというデザイナーの想いが溢れている。”

【受賞展を教育活動の場に】

グッドデザイン賞では受賞作品を一同に介した受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION」を東京都港区の東京ミッドタウンで毎年開催しています。今年度は10月30日～11月4日の日程で行われました。会期中は多数の修了生や関係者にご来場いただき、CoSTEPの展示スペースは終始賑やかで、これまでサイエンス・カフェ札幌が紡いできた人と人の強いつながりを再確認する場となりました。

また、CoSTEPが実施している「リサーチ&ライティング実習」にて、受賞展取材する機会を設けることで、受賞展そのものをCoSTEP受講生の教育活動の場として活用することもできました。具体的には、実習を希望した受講生4名(今井奈央子さん、間冬子さん、道林千晶さん、奥聡史さん)に、「グッドデザイン賞と科学技術コミュニケーション」というテーマのもと、科学技術とデザインを融合させた受賞作品が製品化された背景やコンセプトを調査し、デザイン分野における科学技術コミュニケーションの意義や、将来的にもたらされる社会的な影響および新たに生まれるコミュニケーションの可能性を考察してもらいます。

参加してくれた受講生はいずれもCoSTEP選科Bの受講生であり、10月にライティングスキルを学ぶ3日間の集中演習を終えたばかりの状況だったため、本実習は実践的なアウトプットを行う腕試しの場として絶好の機会となり、4人とも受賞展での取材を意欲的に行っておりまして。各展示スペースを

丁寧に見学し、関係者がいればすぐに声をかけて、作品のコンセプトを熱心に聞いていました。

4人の中で唯一、取材対象そのものをサイエンス・カフェ札幌にした、奥聡史さんの取材の様子を紹介します。札幌在住の奥さんは現地入りする前から資料を集めたり、CoSTEPの現役スタッフに取材したりして、準備に余念がありませんでした。現地入りしてからは、元・CoSTEPスタッフの隈本邦彦さん(現・江戸川大学メディアコミュニケーション学部 教授)にも取材をし、可能な限り多くの関係



写真5 受賞展サイン



写真6 受賞展会場入口の様子



写真7 CoSTEPの展示パネル



写真8 審査委員の南雲勝志先生と



写真9 CoSTEP受講生，修了生，隈本先生と



写真10 グッドデザイン賞の表彰状

者の言葉を集めて、過去から現在までのサイエンス・カフェ札幌を理解しようと努めていました。

なお、本実習の成果はCoSTEPレポートやCoSTEP公式サイトにて発表予定で、前者については北海道大学学術成果コレクション「HUSCAP」への登録を行います。

【受賞報告】

12月4日、山口佳三総長に受賞報告を行いました。新田孝彦理事(副学長／高等教育推進機構 機構長)より10年間の活動実績について説明すると、山口総長より「明日からも、大学と社会を結ぶ新たな対話の場づくりに精進してほしい」と有り難い激励の言葉を頂戴しました。



写真11 山口総長にグッドデザイン賞の受賞を報告



写真12 山口総長, 新田理事, CoSTEPスタッフで記念撮影

【謝辞】

サイエンス・カフェ札幌にご参加いただいた数多くの市民の皆様、支援していただいている紀伊國屋書店札幌本店の皆様、それからゲストとして協力してくださった北大研究者の方々に対し、この場をお借りして厚く感謝申し上げます。

(村井 貴)